

ソーシャル・スキルトレーニング ～ともだちづくりのスキル～

じゃむ

スキル教育が心を育てる

心の教育とは「思考」「感情」「行動」の3領域の反応の仕方が多様化することである。これら3つの心の教育を行う方法をサイコエジュケーションという。サイコエジュケーションの代表選手が構成的グループエンカウンター、キャリアガイダンス、特別活動(グループ体験)、そしてスキル訓練(スキル教育)である。

スキル教育は教師ができるカウンセリングの中でも特に大事なものである。スキルが身に付くと思いと感情が変化する。

なぜソーシャルスキルか

Social

社会的な
人付き合いの

Skills

技術・技能

スキル 身に付いていくもの

ex. 自動車の運転

ソーシャルスキルは体験によって学ぶもの。つまり自然に身に付くもの。もし、よくないスキルを身に付けてしまっても、修正が可能。

子ども同士が結びつく過程では対人的なトラブルが増える。しかし、問題の解決方法がつかないのでつきあいそのものから逃げる。子ども同士は深い結びつきがもてなくなる。ソーシャルスキルは「ともだちづくりのスキル」であると言える。

上下関係の喪失(おもちゃが世代を分断する)
遊び仲間の縮小(趣味・嗜好によって分かれる)
集団内でストレスを感じる子どもの増加(不登校問題等)
遊びの質的变化(情緒交換遊び 情報交換遊び)
人間関係の変化(全人的な人間関係 局面的な人間関係)

自分のことを他の人がどう思っているか分からない、自信がもてない。

恋愛につながらない

ソーシャル・スキル教育とは

人間関係に関する具体的なコツや技術のことをソーシャルスキルと言う。友達との関係が良好な子供はソーシャルスキルを適切に発揮している。ソーシャルスキル教育というのは人間関係に関するノウハウを教えることである。このような教育をすることは、子供たちの個性を殺すことだという批判があるが、ソーシャルスキルを身に付ければ、相手の気持ちを理解でき、自分の思っていることを的確に伝えることができるようになるので、むしろ個性を発揮するための道具を身に付けたのと同じになる。

ソーシャルスキル教育では12の基本的スキルを獲得することができる。

基本的関わりスキル
仲間作りのスキル

あいさつ・自己紹介・上手な聴き方・質問する
仲間の誘い方・仲間の入り方・あたたかい言葉かけ
気持ちを分かって働きかける

